

2019年度 事業計画

課題	中期計画			2019年度				
	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
1 大学と高校の有機的な接続の強化	・高大の連携・接続の課題を継続的に検討する。	(取組1)＜高大連携・接続の検討＞ ・高大連携・接続にかかる課題をテーマとして「フォーラム」を継続的に開催する。	(取組1の活動指標) フォーラム:年1回開催	・高大の喫緊の課題をテーマとしたフォーラムを継続開催する。(国の方針も踏まえて、参加者が参加しやすいテーマで検討する。)		(7月) ・フォーラムの企画案を検討 →日時・テーマの設定	(10月) ・フォーラムの詳細を検討 →企画内容、登壇者等を決定  (11月) ・登壇者等調整  (12月) チラシの作成・周知開始	(2月) フォーラム開催・まとめ
	・プラットフォーム形成大学にかかる情報の一元的な発信	(取組2)＜情報発信＞ ・オープンキャンパスや見学会の日程等を一元管理し、ホームページで情報発信する。	(取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学からWEBシステムを通じて適宜情報を収集し、ホームページで発信する。  ・各教育委員会を通じて大阪府下の全高校に周知する。	・本法人ホームページを活用した情報発信の在り方について検討する。	(4月) ・プラットフォーム形成大学にオープンキャンパス情報の提供依頼  ※オープンキャンパス情報ページ開示(年間を通じて提供)		・ホームページの周知のため、チラシを作成し(9月中に)、プラットフォーム形成大学へ配布(高校訪問等の折に配布)	
2 単位互換プログラムの充実	・単位互換科目をより多くの学生が受講できる戦略的な環境を整備する。	(取組1)＜単位互換の充実＞ ・単位互換科目を一般教養科目や卒業単位として認められるよう、全プラットフォーム形成大学に働きかける。  ・近隣大学間での単位互換を推進するよう、検討・調整を図る。	(取組1の活動指標) ・前年の出願者数の10%増加を目指す。	・出願学生や大学における事務的な煩雑さを緩和するために、出願方式を従来の紙出願に加え、Webで出願が完結する方式を設け、大学が選択できるなど柔軟な運用を目指す。  ・学生や教職員に単位互換の内容や講師像、効果がわかるような情報の発信方法を工夫する。	(4月) ・単位互換科目募集開始:全科目 ・前期科目開講  (5月) ・募集状況の確認 ・追加募集(後期科目分)の検討	(7月) ・追加募集(後期科目一覽)HP公開  (8月) ・集中科目開講 ・追加募集(後期科目)開始  (9月) ・後期科目開講	(10月) ・次年度事業検討  (12月) ・2020年度単位互換事業説明会	(2月) ・2020年度提供科目集約 ・リーフレット・HP改訂  (3月) リーフレットをプラットフォーム形成大学へ送付
	・学生のニーズに合った新たなプログラム科目の実施	(取組2)＜プログラムの充実＞ ・低学年の学生が交流し合えるプログラムを企画・実施する。  ・学生のニーズに合った特徴的なプログラムを開発する。  ・各大学の寄附講座を単位互換科目として提供していただくよう調整を行う。	(取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学間で独自開発した単位互換科目を2科目以上開講する。	・学生のニーズに合った特徴的なプログラムの独自開発を目指し、実施に向けて検討する。(各大学の寄附講座を一定期間、単位互換科目として提供してもらうよう継続して働きかける。)	(5月) ・新規センター科目の検討	(7月) ・前期センター科目 受講生アンケート実施  (8月) ・新規センター科目企画案作成(AI教育) ・プラットフォーム形成大学へのニーズ・実施状況の調査(AI教育) ・プラットフォーム形成大学へ新規センター科目提供への働きかけ	(10月) ・AI教育プログラム案の検討  (12月) ・プログラムの試行に向けて調整	(1月～2月) ・プログラムの試行・まとめ・方向性の検討
3 インターンシップの更なる充実と独自プログラムの開発	・参加学生の就業意識と企業に対する関心を高め、地元に着目させる。	(取組1)＜就業体験型インターンシップ＞ ・産業界とのコネクションの強化、各種団体や中小企業・ベンチャー企業などの特長ある受入先とのインターンシップの拡大、対象学生の学年の引き下げの検討、海外インターンシップ実施の検討などを行う。  ・事務局に受入先の開拓やコーディネートなどのできる専門員の配置を検討する。	(取組1の活動指標) ・インターンシップ先の受入れ10%増(受入企業・団体数)  ・専門員の配置:1名	・会員大学のインターンシップ実施において補完的役割を継続する。  ・経済団体(大阪商工会議所など)や大阪府や大阪市と連携し、大阪に根差した企業、中小企業やベンチャー企業など特長ある企業等を受入先として拡充する。  ・近年の学生の傾向から低学年(1～2年)の参加を促すなど、戦略的な働きかけを行う。  ・大学コンソーシアム大阪ならではの特色ある受入先拡充を目指し、その調整役となる専門人材の登用を検討する。	(4月) ・募集リーフレットをプラットフォーム形成大学へ送付  (5月) ・学生向け説明会を開催(2回) ・企業・団体エントリー締切 ・企画の検討・調整  (6月) ・学生面接・マッチング ・事前研修実施	(7月) ・三者協定書締結  (8月) ・学生実習期間(～9月中旬まで) ・低学年プログラムの検討(大阪商工会議所と意見交換)  (9月) ・企画の検討・調整(低学年向けプログラムの検討) ・事後研修・実施報告会(学生・大学・企業の三者交流会)実施	(10月) ・低学年向けプログラムの企画検討  (11月～) ・受入企業・団体への打診 ・次年度の検討	(1月) ・企業・団体エントリー開始 ・低学年向けプログラムの実施調整(新年度に試行予定)  (2月) ・リーフレット作成  (3月) ・プラットフォーム形成大学向け説明会開催
	・在阪の企業や官公庁等とのインターンシップを拡充することで、有為なプログラムを充実させる。	(取組2)＜プロジェクト型インターンシップ＞ ・自治体や産業界などと連携して既存プログラムの再編・新規企画の立案を検討する。  ・プラットフォーム形成大学における教職員の参画の可能性について検討する。	(取組2の活動指標) ・プロジェクト型インターンシップを毎年度1つ以上実施する。  ・プラットフォーム形成大学からプロジェクト型インターンシップへの参画教職員数:2名	・大阪市西淀川区役所と連携し、区役所視点での「区の魅力発信」プロジェクトの実施を計画する。  ・プログラムの質の保証の担保と担当教職員の負担軽減のため、コーディネーターの業務委託を行う。	(4月) ・実施プログラムの調整(西淀川区と)  (5月) ・募集チラシ作成・配布 ・企画内容の調整(西淀川区と)  ※大学・学生のフローは上記に準ずる	(7月) ・協定等の調整  (8月) ・プロジェクト始動(～9月)	(11月) ・次年度プログラムの検討(連携先の打診)	(1月) ・プログラム検討調整(連携先と)

課題	中期計画			2019年度				
	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
4 グローバル化に対応できる会の提供 留学生や教職員を目指すための	・グローバルに活躍できる学生やそれを支える教職員の学びの場の更なる機能の充実を図る。	(取組1) <他国・他地域との交流> ・台湾財団法人高等教育国際合作基金との交流を継続し、高等教育会議(シンポジウム)を開催する。  ・学生交流について、プラットフォーム形成大学のニーズ調査や課題を検討する。  ・海外からの留学生受け入れのノウハウ等を学ぶ機会として職員交流を行う。	(取組1の活動指標) ・高等教育会議(シンポジウム)の開催(2年に1回)	・台湾財団法人高等教育国際合作基金(FICHET)との交流の一環として、「高等教育会議」を10月に開催する。  ・FICHETとの交流を教職員や学生まで広げるため、会員ニーズの把握と具体的な企画の検討を進める。	(昨年度から継続) ・会場調整・スケジュール調整 ・大阪台北高等教育会議の企画検討(FICHETと)  (5月) ・登壇者等調整開始  (6月) ・企画の進捗確認、方向性の調整	(8月) ・周知用チラシの作成  (9月) ・高等教育会議参加者募集 ・開催準備(最終調整)	(10月) ・高等教育会議開催  (11月) ・まとめ、報告書の作成	(1月) ・報告書の配付 ・交流の方向性の検討
		(取組2) <グローバル人材育成事業> ・グローバル人材育成講座、国際学生・留学生の国際交流イベントを継続実施する。  ・上記講座の単位互換科目化を目指し、プラットフォーム形成大学間で検討を行い、案を作成する。  ・プラットフォーム形成大学の学生や教職員に広く周知するため、リーフレットを作成し、配布する。	(取組2の活動指標) ・プラットフォーム形成大学の10%の大学が参加。  ・単位互換科目としてのプログラムの開発と単位付与と大学の選定を行う。  ・作成したリーフレットを全てのプラットフォーム形成大学へ配付する。(毎年1回)	・周知  (4月) ・講座・イベントの企画調整(連携先と) ・グローバル人材育成講座・プレゼンコンテスト周知開始チラシ作成  (5月) ・グローバル人材育成講座 周知開始 ・プレゼンコンテストに参画する有志の企画学生募集 ・プレゼンコンテスト発表者募集  (6月) ・グローバル人材育成講座開講	(4月) ・プレゼンコンテスト 企画学生始動(以降定期開催)  (11月) ・プレゼンコンテスト一般参加者募集 ・企画の最終調整	(12月) ・プレゼンコンテスト開催  (1月) ・まとめ、報告書の作成 ・次年度の方向性の検討		
5 学生主体の地域連携促進による大阪の活性化	・本プラットフォーム独自の連携事業を確立し、地域連携を推進する。	(取組1) <地方自治体からの受託事業> ・プラットフォーム形成大学のメリットになることを判断基準とし、受託の可否を決める。  ・これまでの受託事業での経験を活かし、自治体や産業界にアピールすることにより、更なる受託事業を開拓する。	(取組1の活動指標) ・大阪市や大阪府(府下自治体含む)等の受託事業先を開拓する。 訪問自治体数:3件	・大阪府、大阪市をはじめとする自治体へ大学コンソーシアム大阪のPRや情報収集を継続して行う。  ・大学コンソーシアム大阪の地域連携のPR資料作成やWEBページの改修を行い、自治体等に積極的な情報発信ができるよう検討を行う。	自治体関係者と適宜意見交換の場を設定	(11月) ・地域連携情報交換会の具体案検討  (12月) ・地域連携情報交換会の順次開催(～1月)	(1月) ・ヒアリング調査の取りまとめ ・次年度の方向性の検討	
		(取組2) <地域連携事業> ・「地域連携 学生フォーラムin大阪」がより一層学生主体の企画・運営の取り組みとなるよう、環境整備を行う。また、自治体や産業界に積極的にPRし、新たな地域連携創出の機会を提供する。  ・大学や自治体の交流を主とした「地域連携情報交換会」を開催する。  ・自治体と連携強化を図るためのニーズ調査や部会間との連携を通じて、地域連携のためのコーディネート機能を強化する。  ・既存の地域連携データベースを自治体のニーズに対応できるように再構築する。	(取組2の活動指標) ・参加大学数:20大学以上(プラットフォーム形成大学の50%)  ・自治体と共同事業に関する意見交換の場を設定する。  ・地域連携データベースの改修の具体化	・「地域連携 学生フォーラム in 大阪」については、学生主体の企画として継続実施し、発表方法の工夫など、より学習効果の高いものとする。  ・会員大学や自治体などの地域連携に関する情報交換会の再開にあたり、自治体への大学に対するニーズ調査を行い、実施を目指す。  ・上記を踏まえて、会員大学に向けた自治体のニーズをデータベース化する検討を行う。  ・各大学で行われている中高生向けのセミナーについて情報収集を行い、大学コンソーシアム大阪のHPで公開するなど、大学の既存事業の周知といった中間支援組織として取り組める方策を検討する。(高大連携部会より事業移管のうえ、継続を検討)	(4月) ・フォーラムの企画にかかる有志学生を募集  (5月) ・フォーラム企画学生始動(以降定期開催)  (6月) ・フォーラム参加要項・発表学生募集チラシの作成、企画検討 ・地域連携情報交換会の企画案を作成	(7月) ・フォーラム発表学生募集開始 ・地域連携情報交換会の企画検討 ・プラットフォーム形成大学への基礎調査にかかる案の確認・検討  (8月) ・フォーラム一般参加者募集チラシ作成  (9月) ・一般参加者募集開始	(10月) ・フォーラム開催 ・まとめ、企画学生反省会開催  (11月) ・報告書の作成 ・地域連携情報交換会の具体案検討  (12月) ・地域連携情報交換会の順次開催(～1月)	(1月) ・フォーラム報告書の配付 ・次年度の方向性の検討
6 学生ボランティア事業の充実	・学生ボランティアの育成とゴールデン・スポーツイヤー等における学生ボランティア事業を充実させる。	(取組1) <国際イベントへの学生参加の検討> ・ゴールデン・スポーツイヤー(2019-2021)による外国人来訪の増大に伴い、学生による通訳やイベントサポートなどのボランティアの派遣に関し、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。  ・大阪国際万博(2025年度)誘致にあたり、本プラットフォームとしての参画の可能性について検討する。	(取組1の活動指標) ・学生ボランティアの派遣に関する本プラットフォームの方針・企画案の策定及び実施	・2025年大阪・関西万博をはじめとした国際的な催しに対し、学生のボランティア参画や、インバウンド旅行者への大阪の魅力発信に学生が携わる機会の創出に向けて、自治体・産業界とともに検討する。	(7月) ・G20サミットへの学生ボランティア参加状況についてプラットフォーム分科会にて報告 ・万博協会にヒアリング調査実施  (8月) ・プラットフォーム形成大学に対し、学生ボランティアの取組状況について調査実施  (9月) ・調査取りまとめ	(12月) 上記の地域連携情報交換会においても行政や産業界のニーズをヒアリング(～1月)	(1月) ・調査を踏まえて、企画案を作成・検討 ・方向性の確認	
		(取組2) <観光・集客にかかる学生参加の検討> ・自治体からのニーズに基づき、観光・交流にかかる事業企画などについて、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。	(取組2の活動指標) ・観光・集客や子ども支援にかかる学生参加の企画案の策定	・地域連携担当者情報交換会等を通じて、自治体のニーズを共有する場を創出し、具体的な事業への展開について検討する。	(8月) ・プラットフォーム形成大学にインバウンドの取組状況について調査実施  (9月) ・調査取りまとめ	(12月) 上記の地域連携情報交換会においても行政や産業界のニーズをヒアリング(～1月)	(1月) ・調査を踏まえて、企画案を作成・検討 ・方向性の確認	

課題	中期計画			2019年度				
	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	計画	4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
7 ・社会との多様な接点の創出による ・アクティブ・ラーニングの充実	・産業界や自治体と学生との協働の機会をコーディネートする。	(取組1) <学生による企画・運営事業の創出> ・自治体や産業界などとの協働による学生の事業企画について、本プラットフォームとして自治体や産業界などにアプローチする。  (取組2) <学生による成果発表の場の創出> ・本プラットフォームが支援するアクティブ・ラーニングの成果の発表について、広く社会に発信できる仕組みを具体化する。	(取組1の活動指標) ・アクティブ・ラーニングの先行大学を調査し、プラットフォーム共通のプログラムを企画・実施する。  (取組2の活動指標) ・アクティブ・ラーニングの成果の発表について、広く社会に発信できる仕組みを検討のうえ、実施する。	・アクティブ・ラーニングの先行事例を調査し、大学コンソーシアム大阪として自治体・産業界と連携した学生のアクティブ・ラーニングの機会創出とその成果発表の場の設定に向けて検討する。	※取組1・取組2と連動  (6月) ・AI教育にかかるプログラムのたたき案を検討	(7月) ・大阪産業局にAIプログラムに関するヒアリングを実施  (8月) ・プラットフォーム形成大学にAI教育に関するニーズや取組状況について調査実施  (9月) ・調査取りまとめ	(11月) ・プログラム案 最終調整  (12月) ・プログラムチラシ作成 ・周知開始 ・試行	(1月) ・まとめ ・方向性の検討
8 ・内なる国際化の推進	・受入留学生が、安心して生活、修学、就職に取り組めるように、環境整備を行う。	(取組1) <留学生の環境整備> ・留学生の地域社会とのつながりづくりを支援する方策を検討する。  ・留学生と国内学生の交流拡大を視野に入れて、留学生の事業への参加促進策を検討する。	(取組1の活動指標) ・SUCCESS-Osakaの活用も視野に入れながら、留学生への支援策を策定する。	・公的住宅の留学生へ間口を広げた活用の方策として、大学での先行事例を会員大学に紹介する。  ・会員大学間の国内学生・留学生の相互交流と高い国際意識やコミュニケーションスキルをもつ若者の育成に寄与するため、「学生英語プレゼンテーションコンテスト」を実施する。(新規)	(5月) ・大学の先行事例を共有  ※プレゼンコンテストは課題5の計画に準じる			
9 ・SD研修の更なる充実	・プラットフォーム形成大学の教職員の能力・資質向上を目指し研修を実施する。	(取組1) <SD研修の戦略的な実施> ・プラットフォーム形成大学のニーズを踏まえて、初任者研修を充実させるとともに、研修プログラムを開発し、研修を行う。  ・プラットフォーム形成大学間で人材育成に活躍できる職員を育成する研修を企画・実施する。  ・「大学におけるリスクマネジメント」等をテーマとしたプラットフォーム形成大学間での定期的な勉強会を開催する。	(取組1の活動指標) ・初任者研修をはじめとした、各種研修・勉強会の継続実施:参加者10%増  ・研修プログラムを企画し、毎年1回以上実施する。  ・勉強会を毎年3回以上開催する。	・「初任者研修」、「SD研修講師養成研修」、研修を継続実施する。また「国際化推進担当者研修」や会員大学のニーズを踏まえた研修の実施を検討する。  ・会員大学間で人材育成ができるレベルを備えた職員を育成するための研修を継続的に企画・実施する。  ・会員大学を中心とする教職員の勉強会や参加者間の交流の場として、「サロン・ド・大学コンソーシアム大阪(通称:サロン・ド・コンソ)」を継続実施する。	(5月) ・2019年度研修・サロンの企画検討(方向性の確認)  (6月) ・発達障がい学生支援研修会(第1回)	(7月) ・研修・サロンの具体案を検討  (8月) ・周知用チラシの作成 ・初任者研修・サロン(第1回・第2回)参加者募集開始 ・発達障がい学生支援研修会(第2回)  (9月) ・サロン開催 ・プラットフォーム主催SD研修開催	(10月) ・初任者研修開催 ・発達障がい学生支援研修会(第3回)  (11月) ・サロン開催	(1月) ・実施状況の確認 ・次年度の方向性の検討  (2月) ・サロン開催  ※3月までに研修2～4回、サロン4回を実施予定
10 その他					(6月) プラットフォーム主催公開講座(第1回)開催	(7月) ・「就活・働くことに不安のある学生の支援」検討会(第1回)  (9月) ・「就活・働くことに不安のある学生の支援」検討会(第2回) ・プラットフォーム主催公開講座(第2回)開催	(11月) ・「就活・働くことに不安のある学生の支援」(第3回)  ※以降定期開催し、取りまとめのうえ、策定した支援方策案をアーカイブする枠組みを作る。	(～3月) ・次年度の方向性を検討